

外の関係を中心とした日本語連体修飾の分析¹ —対照言語学的観点から—

神澤克徳 (京都大学大学院 人間・環境学研究科)
rnkp43470@gmail.com

1. 序論

日本語の連体修飾節の分析では、寺村 (1975; 1977a; 1977b) の内の関係と外の関係の区別が一般的である。本発表では、このうち、外の関係に関して、これまで先行研究では扱われてこなかった以下の二点を明らかにする。一点目は、日本語では外の関係のような連体修飾節が許可される傾向にある動機付けを、英語、中国語、韓国語との間の連体修飾節にかかわる言語的特性の差異から明らかにする。二点目は、日本語の外の関係の主要部と修飾部の関係が恣意的なものではなく、そこにはある程度の意味関係のパターンがみられることを明らかにする。

2. 先行研究の検討と本研究のねらい

2.1 先行研究の検討

日本語の連体修飾節では、寺村 (1975; 1977a; 1977b) における内の関係と外の関係の区別が一般に受け入れられている²。

(1) 内の関係

主要部は修飾部に対して格助詞で表される関係を内在しており、修飾部は主要部の特定を行っている。

e.g. [投手が投げた]ボールを捕った。 [ヲ格]
[モグラが出てきた]穴を見つけた。 [カラ格]

(2) 外の関係

主要部にどのような格助詞をつけても修飾部のどこにも納めることができず、修飾部は主要部名詞句の内容を補完している。

e.g. この頃[トイレに行けない]コマーシャルが多くて困る。(松本 1993: 102)
[高校入試に絶対受かる]家庭教師を探しています。(ibid.: 105)

2.2 本研究のねらい

先行研究では以下の 2 点について、明らかにされているとはいえない。

(3) 先行研究で明らかにされていない点

- (i) どのような動機付けによって、日本語の連体修飾節では外の関係が許可される傾向にあるのか。
- (ii) 外の関係では主要部と修飾部との間に格関係が成り立たないが、この場合、主要部と修飾部はどのような関係で結ばれているのか。

(3i), (3ii) に関して、本研究ではそれぞれ (4i), (4ii) のアプローチをとる。

(4) 本研究でのアプローチ

- (i) 英語、中国語、韓国語との対照から、連体修飾節 (特に外の関係) の発現の動機付けとなる日本語の言語的特性を明らかにする。
- (ii) (格関係という統語的關係の代わりに、なんらかの意味関係によって主要部と修飾部が結ばれているのではないかと仮定し、) コーパスやウェブから日本語の外の関係のデータを収集し、主要部と修飾部の意味関係について包括的な調査をおこなう。

3. 日本語で外の関係が生じる統語的動機付け

本節では (5,6) の点について、諸言語 (英語、中国語、韓国語) と比較することで、日本語の連体修飾節で外の関係が許される動機付けを明らかにする。

(5) 主要部と修飾部の関係の拡張を抑制する要因

英語では、主要部と修飾部の結びつきは (i), (ii) によって支持されているため、統語的な結びつきを超えた外の関係のような主要部と修飾部の関係への拡張は生じにくい。一方で、日本語はそれに対応するマーカーがないため、主要部と修飾部の結びつきは統語的に束縛されず、それが外の関係を生じさせる動機付けになっている。

(i) 関係代名詞

(ii) 談話的な要因からの修飾部の項のギャップ化の不在

英語では、談話的な要因によって項を落とすことができなため、修飾部で項のギャップ化が主要部と修飾部の結びつきを支持する直接的な統語マーカーとなる。一方、日本語では、談話的な項のギャップ化が生じるため、修飾部で生じている項のギャップ化が、修飾部と主要部を結びつけるための直接的な指示とはならない (cf. 久野 1978)。

e.g. *The money [ϕ gave me yesterday] was stolen.

(6) 修飾部のイベントの行為主体と行為対象の明示的区別

日本語で外の関係とされる (7) は、英語、中国語、韓国語では、(8-10) のように因果関係を示すマーカー (*because*) や使役のマーカー (使、하는) によって、修飾部のイベントの行為主体と行為対象を明示的に区別しなければ不自然な表現になることから、これに関わる外の関係に対応する表現は生じない。

(7) [トイレに行けない]コマーシャル

(8) The commercial [because of which one can go to the bathroom]

(9) [使 头脑 变 聪明的] 书

させる 頭 なる 賢い の 本

「頭をよくする本」 (堀江、パルデシ 2009:64)

- (10) [화장실-에 갈 수 없게 하는] 광고
hwacangsiley kal su upkey hanun kwangko
bathroom-ALL go way.SUB NEG CAUS commercial
‘a commercial which makes people not go to the bathroom’

以上をまとめると表のようになる。日本語の連体修飾節では、主要部と修飾部の関係の拡張を抑制する言語的要素がなく、修飾部のイベントの行為主体と行為対象の明示的な区別をしない傾向にあることが、外の関係のような連体修飾節を許可する一因になっていると思われる。

表 外の関係の発現にかかわる統語的要因³

		English	Chinese	Korean	Japanese
主要部と修飾部の 関係の拡張を 抑制する言語的要素	関係代名詞	+/-	-	-	-
	修飾部の項 のギャップ からの特定	+	-	-	-
修飾部のイベントの行為主体と 行為対象の明示的区別		+	+	+	-

4. 日本語の外の関係における主要部と修飾部の意味関係

コーパスやウェブから日本語の外の関係のデータを収集し、主要部と修飾部の意味関係について包括的な調査をおこなったところ、主要部と修飾部の関係は恣意的ではなく、そこにはある程度の意味関係のパターンがみられることがわかった。これを (11) に示す⁴。

- (11) 外の関係の主要部と修飾部にみられる意味関係のパターン
- (i) イベント-セッティング型連体修飾節
 - (ii) イベント-原因型連体修飾節
 - (iii) イベント-随伴現象型連体修飾節

以下ではそれぞれのタイプにみられる特徴を簡単に示す。

(12) イベント-セッティング型連体修飾節

主要部が修飾部で表されるイベントのセッティングとして解釈できる。セッティングとしては、空間的要素が前景化されている空間的セッティングと、時間的要素が前景化されている時間的セッティングがある。

- e.g. [突然の別れを告げられた]空はとても悲しかった。 [空間的]
[試験に落ちた]過去はもう忘れましょう。 [時間的]

(13) イベント-原因型連体修飾節

主要部が修飾部のイベントの原因として認識される。ただし、主要部にはイベントそれ自体ではなくイベントの参加者がきているので、解釈者のフレーム的知識によって、そのイベントの参加者から、イベント全体が語用論的に推論されなければならない。また、主要部から推論されるイベントは、修飾部のイベントに対して、時間的に同時か、あるいは先行する⁵。

e.g. こんなにも[息が上がる]山を登ったのは久しぶりだ。
こんなに[泣ける]映画だとは思わなかった。

(14) イベント-随伴現象型連体修飾節

主要部には経験的知識から、修飾部のイベントに随伴した現象であると解釈される名詞がくる。
また、主要部は修飾部のイベントに対して、時間的に同時か、あるいは後続する。

e.g. [彼女の喜ぶ]仕草がかわいい。
[高いグラスを落とした]動揺がまだ残っている。

5. 結語

本研究では、以下の二点を明らかにした。一点目は、対照言語学的観点から、日本語で外の関係のような連体修飾節を許可する一因として、主要部と修飾部の関係の拡張を抑制する言語的要素がなく、修飾部のイベントの行為主体と行為対象の明示的な区別をしない傾向にあることが関係していることを明らかにした。二点目は、データ分析から、日本語の外の関係の主要部と修飾部の関係には、(i) イベント-セッティング型連体修飾節、(ii) イベント-原因型連体修飾節、(iii) イベント-随伴現象型連体修飾節という3パターンがみられることを示した。

脚注

1. 謝辞: 韓国語のネイティブチェックに際しては、金光成氏 (京都大学大学院 人間・環境学研究科) に大変お世話になった。記して感謝する。
2. この二分法が、これ以上議論の余地がないほど精緻化されているといえない。たとえば、寺村は、「[頭よくなる]本」は内の関係に分類され、「[さんまを焼く]におい」は外の関係に分類されると述べているが、その明確な基準は示されていない。本発表では、この問題にはこれ以上言及しない。
3. 「修飾部のイベントの行為主体と行為対象の明示的区別」については、+は「その傾向にある」、-は「その傾向にない」ことを示す。
4. 便宜上、用例には意味が変化しない範囲で修正 (短縮化など) を加えている。
5. この場合の「時間的に同時」とは、イベントAとイベントBの開始時と終了時の同時性を指しているのではなく、イベントAとイベントBが少なくともどこかの時点で平行して生じていることを指す。

参考文献

- 堀江薫、プラシャント・パルデシ 2009. 『言語のタイポロジー: 認知類型論のアプローチ』 東京: 研究社.
- 久野暲 1978. 『談話の文法』 東京: 大修館書店.
- 松本善子 1993. 「日本語名詞句修飾構造の語用論的考察」 『日本語学』 12 巻 12 号, 101-114.
- 寺村秀夫 1975. 「連体修飾のシンタクスと意味 その1」. 『日本語・日本文化』 4 大阪外国語大学研究留学生別科, 71-119.
- 寺村秀夫 1977a. 「連体修飾のシンタクスと意味 その2」. 『日本語・日本文化』 5 大阪外国語大学研究留学生別科, 29-78.
- 寺村秀夫 1977b. 「連体修飾のシンタクスと意味 その3」. 『日本語・日本文化』 6 大阪外国語大学研究留学生別科, 1-35